



組立・調整資料



実演動画



関連商品実演動画

目 次

1. 播種機の種類/各部名称	-----	1
2. 組立要領	-----	2～3
3. 各部の調整	-----	4～6
4. 運転及び操作方法	-----	7～10
5. 播種機関連商品紹介	-----	11

1. 播種機の種類(全自動/オート/床土無オート)

- ・全自動タイプ THK x x x x x

作業工程 床土 ⇒ 灌水（薬剤） ⇔ 播種 ⇒ 覆土 完成

- ・オートタイプ HK x x x x

作業工程 床土
灌水（薬剤） ⇔ 播種 ⇒ 覆土 完成

- ・オートタイプ 床土入れ機能無HK x x x x

作業工程 灌水（薬剤） ⇒ 播種 ⇒ 覆土 完成

※灌水装置、薬剤灌水装置はオプション

各部名称 （写真は全自動播種機 **THK2009B**）



2. 組立要領

1.脚の組立

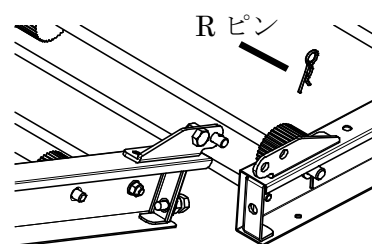
折りたたまれている脚を立てて、ノブボルトでしっかりと固定してください。(4カ所)



ノブボルト

2.補助レールの組み付け(出口)

①補助レールを連結し、R ピンで抜けないように固定してください

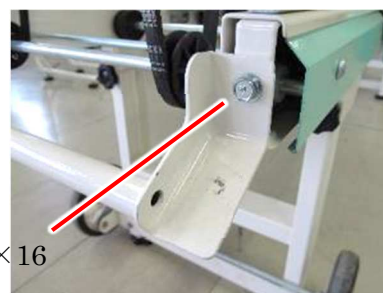
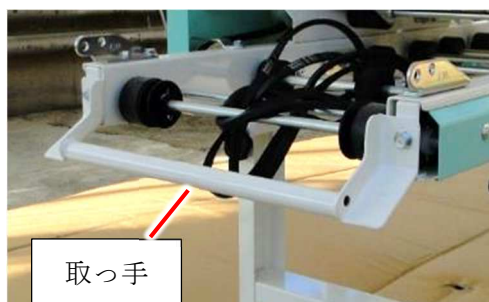


②センサーコードコネクターを接続してください。



3.取手の組み付け(型式により無い場合があります)

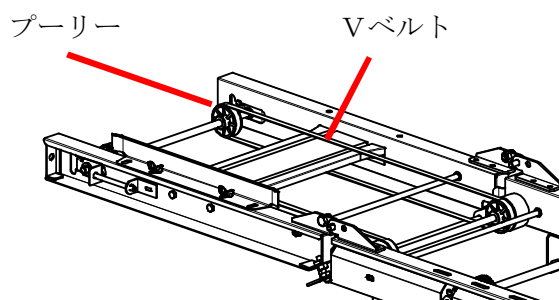
取手を付属の六角ボルトで組付けてください。(M6×16 2本)



M6×16

4.駆動補助レールの組付け(入口)

Vベルトをプーリーに掛け、Rピンで抜けないう固定してください。



※型式により無いものもあります。

5.キャスターの組付け

出口側の脚にキャスターを組付けてください。



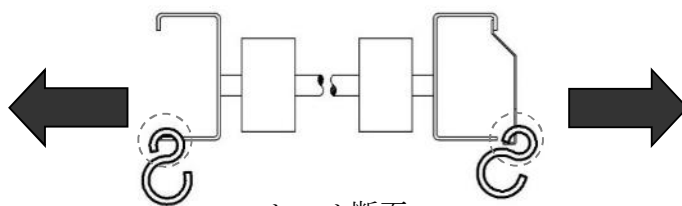
6.土受け / 水受けシートの組付け

① S字フック穴にを引っ掛けてください。

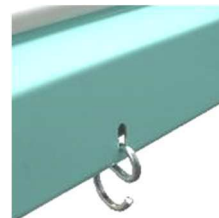
※レールカバーの有無により組付け方向が異なります。



レールカバー無側



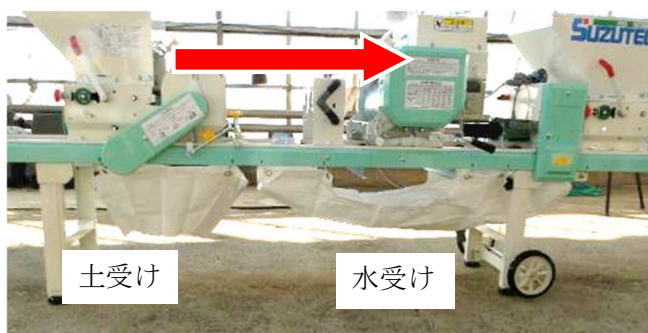
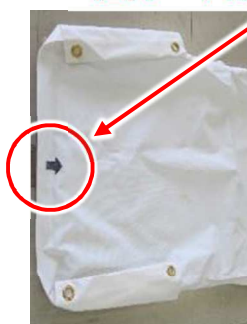
レール断面



レールカバーあり側

②土受け/水受けシートを①のフックに掛けてください。

注)シートの矢印を育苗箱の進行方向に合わせてください。



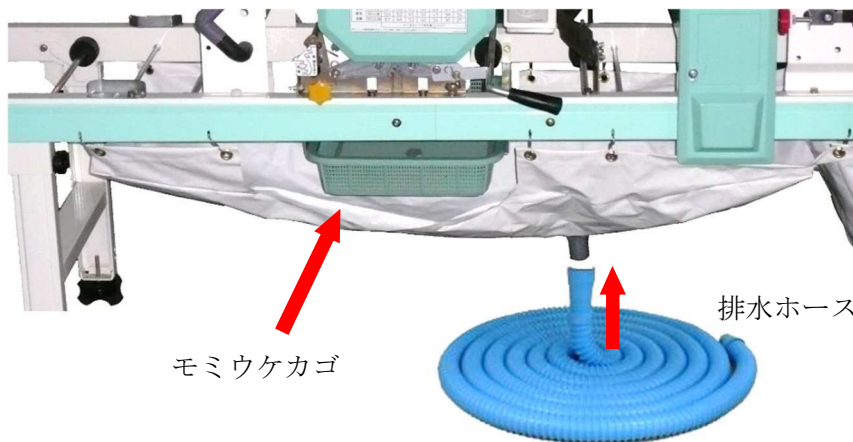
土受け

水受け

7. 種受け / モミウケカゴ / 排水ホースの組付け



種受け

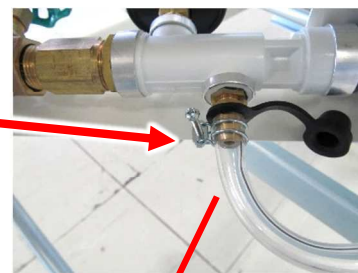
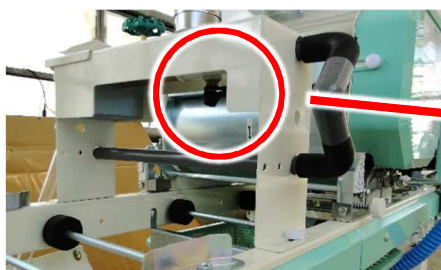


モミウケカゴ

排水ホース

8.排水 / 給水 / 薬剤灌水ホースの組付け(※薬剤灌水ホースは使用時のみ)

ホースは奥まで差込みホースバンドで止めてください。



薬剤灌水ホース

9.補助ホッパーの取付(床土・播種・覆土)

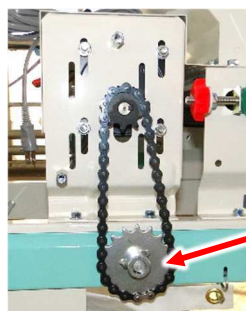
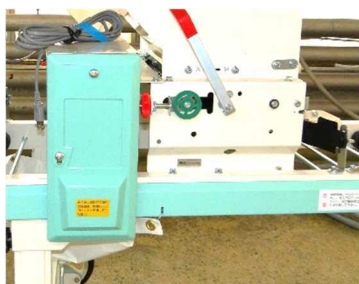
付属のノブボルトで固定してください。

ノブボルトで止める



10.搬送スプロケット交換(60Hz地区のみ)

モーターカバーを外しモーター取付ボルトを緩め、付属のスプロケットに交換してください。



スプロケット

3. 各部の調整

1). 本体の水平調整

播種機本体の足（ノブボルト）にて水平になるよう調節してください。

駆動補助レール、補助レールを調整ボルトで水平になるよう調節してください。



本体



駆動補助レール



補助レール

2). 箱ガイドの調整

育苗箱を流し、片寄防止板・回転ブラシ部・播種部のガイドを調整してください。

注) 数種類の箱がある場合一番高い箱で調整を行います。

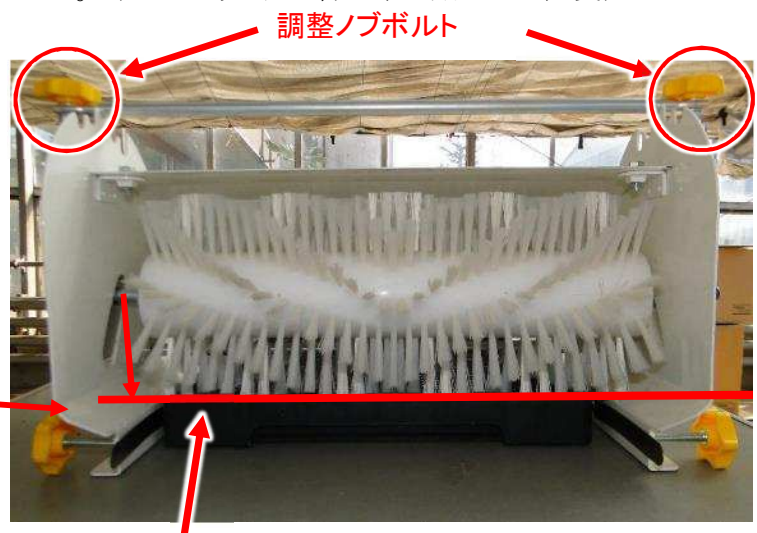
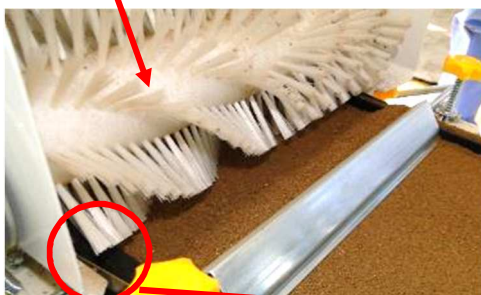


育苗箱が中心を通るよう、箱との隙間を 3～5 mm にしてください。

3). 回転ブラシ / スミトリ装置(前)の調整

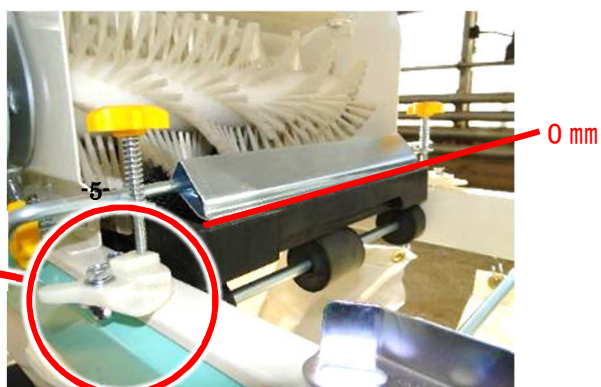
箱のフチ 0 mm に合わせてください。(ブラシ先端が縁に軽く触れる程度)

回転ブラシ



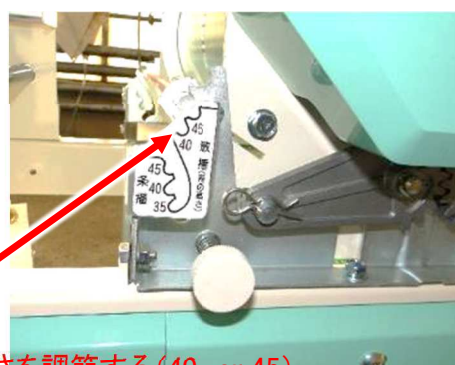
回転ブラシの先端と箱のフチが 0mm に調節してください

スミトリ装置



カキトリ調節座を'0'の位置に合わせてください

4).播種部の高さ調整 (40 or 45)



使用する育苗箱の高さに合わせ、レバーで播種部高さを調節する(40 or 45)

5).播種部と覆土のVゴムを箱のフチ 0 mmに調整する。(THK2009B)



Vゴムを箱のフチ 0 mmに調整する。

4. 試運転

1. 培土をホッパーに入れる
2. 空箱を流す

注) 最初の1箱目は先端に培土が入らない為あらかじめ培土を入れる。



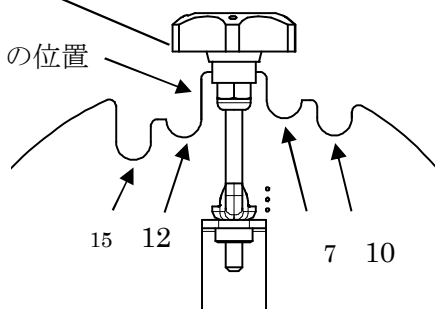
3. 回転ブラシのカキトリ量の調整をする (写真1) 調節シャフトを持ち上げ好みのカキトリ量に設定します。カキトリは箱のフチから 7, 10, 12, 15 mm。

写真1



調節シャフト

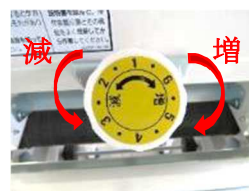
「0」の位置



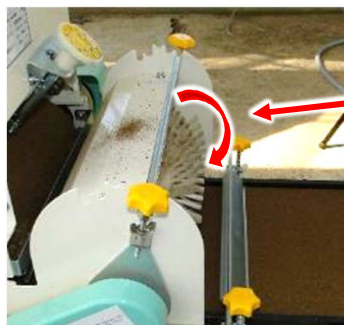
- ① 床土ホッパーのシャッターを開く 10 ミリカットの場合 約 18 ミリ(シャッター隙間「0」状態からダイヤル6回転)



シャッター隙間



- ② 土の繰出量が少ないと回転ブラシに届かなく均平にならない。又繰出量が多すぎると回転ブラシで持回り均一にならない。(回転ブラシは土の表面を軽くなでるように)



※繰出量が多すぎると均した床土の上にさらに培土が落ち均等にならない。
また、下に落ちる培土の量も増えホッパーに戻す回数が増える。
持ち返りが多い場合はシャッター開度を狭くする

4. スミトリ装置（前）の調整

- ① 回転ブラシのカキトリ量と同じ位置に高さ調整する。



※15mmは調整板無の場所
(搬送フレームの上)

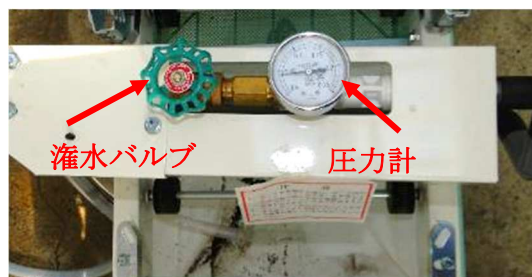
注) 高さが合わないと培土を引きずり後端に溜り、後端が高くなり靱が転がる。



5. 灌水量の調整

- ① 水道を開き灌水スイッチ（メインスイッチの隣）を入れ灌水バルブを少しずつ開く

注) その逆の操作をしますと水压計の針が振り切れ故障の原因になります。



- ② 灌水バルブを開きカバーに貼ってあるラベルで圧力を調整する。

減圧弁でオーバーフローが多く「ビー」と音が大きい場合は水道元をしぼる。

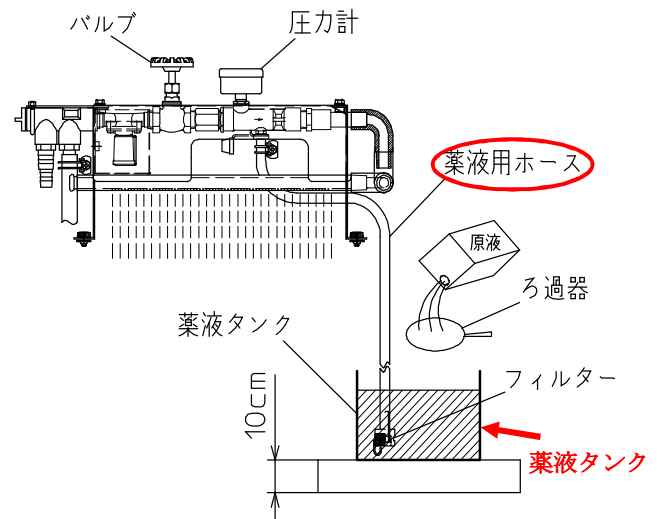
注) 地下水を使用する場合は圧力が安定しない為、水中ポンプ(全揚程 15m以上)を使用して
ください。

灌水量の調節(散播)							
圧力計目盛 MPa	0.02	0.03	0.04	0.06	0.08	0.1	
灌水量 真水灌水	730	885	1020	1240	1370	1605	
ml/箱 薬剤灌水	788	965	1100	1340	1560	1745	
薬剤吸込量 ml/箱	76	103	130	170	202	234	
薬剤 散布 倍率	500倍	132	97	77	59	50	43
	800倍	83	61	48	37	31	27
	1000倍	66	49	39	30	25	22
水10ℓ当たりの薬剤量(g)を示す							

※ダコニール消毒防除基準は500～1000倍液を1箱当たり500mℓ散布となっています 20076-31230

③ 薬剤灌水

圧力計下側にある黒いキャップを外し薬剤ホールを取付け薬液タンクの中にホースを入れる。



※薬液の作り方

- 播種箱数 500 箱、
灌水量が 1100ℓ、
1000 倍のダコニール消毒液を散布
1. 1 箱の薬液散布量 130mℓ
 2. 水 10ℓ 当たりの薬剤量 39 g (mℓ)

圧力計目盛 MPa	0.02	0.03	0.04	0.06	0.08	0.1
灌水量 真水灌水	730	885	1020	1240	1370	1605
ml/箱 薬剤灌水	788	965	1100	1340	1560	1745
1 薬剤吸込量 ml/箱	76	103	130	170	202	234
2 薬剤散布 500倍	132	97	77	59	50	43
800倍	83	61	48	37	31	27
1000倍	66	49	39	30	25	22
水10ℓ 当たりの薬剤量 (g) を示す						

※ダコニール消毒防除基準は500～1000倍液を1箱当たり500mℓ散布となっています 20076-31230

計算式

必要消毒液量

$$\begin{aligned}
 &500 \text{ 箱 (播種枚数)} \times 130 \text{ mℓ (薬剤吸込量/箱)} \\
 &= 65000 \text{ mℓ} \div 1000 = \underline{65ℓ} \\
 &500 \text{ 播種するのに必要な消毒液量は } 65ℓ \text{ になります。}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 \text{必要薬剤量(mℓ)} &= (\text{必要消毒液量:ℓ} \div 10ℓ) \times 10ℓ \text{ 当たりの薬剤量(mℓ)} \\
 &= (65ℓ \div 10ℓ) \times 39\text{g} \\
 &= \underline{253\text{g}}
 \end{aligned}$$

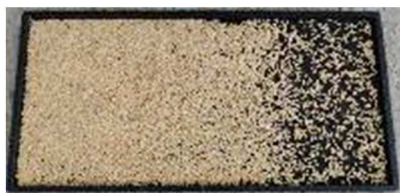
以上のことから、必要薬剤量は 253g になります。

6. 播種調製

① 播種ホッパーに催芽粃を入れる

注1) 粃は手で軽く握り手に付かないぐらいに乾燥させてください。水分を多く含んだ状態で播種すると種粃が播種ローラーに付着し、落ちが悪く播種量が不安定になります。

② ダイヤルを回し好みの播種量に設定してください。(無段階調整)

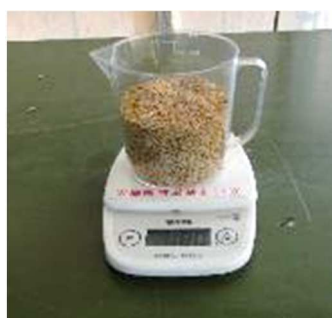
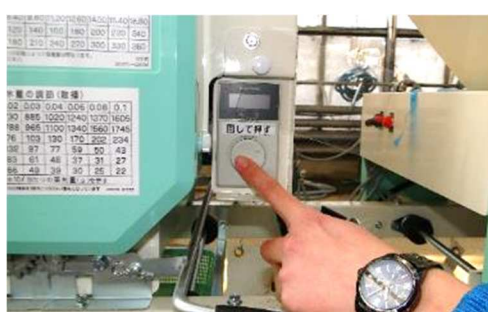


③ 播種部のシャッター調整

播種時回転ブラシで粃受けに排出が多い場合はシャッターが開き過ぎの為調整してください。(出荷時隙間は約 20mm 指が1本入る程度)



④空箱を流し播種をし播種量設定値は目安なので水分量、品種によって変わる為必ず実測をする。



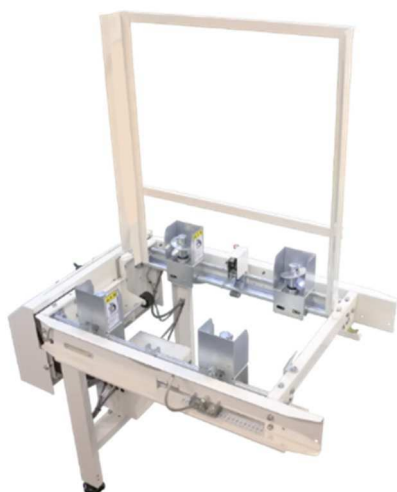
165g	185g	190g	205g	215g	230g	245g
約245cc	275cc	285cc	305cc	325cc	345cc	370cc
約1.4合	1.5合	1.6合	1.7合	1.8合	1.9合	2合
260g	275g	290g	305g	315g	325g	335g
約390cc	約415cc	約435cc	約460cc	約470cc	約490cc	約500cc
約2.2合	約2.3合	約2.4合	約2.5合	約2.6合	約2.7合	約2.8合
350g	360g	370g				
約525cc	約540cc	約555cc				
約2.9合	約3合	約3.1合				

7. 覆土調整

床土と同様にホッパーに培土を入れ、シャッターで落下量を調整する。

5. 播種機関連商品

苗箱供給機 S N K 430
(箱を自動供給 最大 20 箱)



箱積上げ機 (A H 9)
(箱を自動積上げ 最大 7 箱)



ミニコン S C S 1800
(土の供給を軽減、回収装置標準装備)



箱施薬ホッパー S D P 120
(播種と同時に施薬 スタンドはオプション)

